

半年以上継続して勤務している出所者の職場定着のプロセスについて

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
障害・行動分析クラスター
平松 祐佳

本研究では、現在継続して勤務している元出所者が、非行や犯罪行為ではなく仕事を継続することを選択し、職場に定着するまでの心理的プロセスを明らかにすることを目的とした。

過去に矯正施設や刑事施設に入所・入院経験のある者のうち、勤務および修学を半年以上継続している者を対象者として、調査協力に同意した8名を対象に半構造化インタビューを行った。その逐語録を分析対象として、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて分析を行った。

分析を行った結果、17の概念が生成され、さらにそこから《犯罪行為への依存》《職場での不適応》《目標の設定と更生の決意》《犯罪からの離脱と社会適応》《仕事による自己実現》の5個のカテゴリーが生成された。

本研究の結果から、元出所者の職場定着のプロセスと、仕事という行為に見出した価値については明らかになったが、そのような価値を引き出すことのできる職場環境や人間関係については、人によって様々であることも示唆された。また、勤務を通して結果的に仕事内容に興味を持った対象者もいたことから、本人の興味にあった職場探しに加えて、本人にとって働きやすい職場を紹介することも、元出所者の職場定着に効果的であることが示唆された。